

第2号議案 2022年度活動計画及び予算について（案）

1、活動計画

（1）基本的な活動の方向

- ①岩手地域総合研究所の中心的な役割は被災地復興やまちづくり、教育・医療・介護など、地域課題の調査・研究にあります。このことを常に意識して活動を進めます。
- ②会員や地域の皆様の要望に沿って、講演会や学習会を取り組みます。
- ③学習や調査を通じて、地域の組織や個人との連携を強め、地域講座の開催や地域会員と協力して地域の調査・研究を進めます。
- ④研究者をはじめとする個人会員並びに団体会員の加入促進に努めます。
- ⑤新型コロナウイルスがまだ衰えを見せない中、オンラインを活用するなど感染防止に努め、安全・安心な会議や活動を進めます。

（2）具体的な活動

1) 調査・研究に関する活動

1 調査・研究部会の活動

- ①「くらし・福祉」や「子育て・教育」部会は学習会を中心にある程度継続できています。「産業・労働」部会は昨年度から始めた自治体職員定数等の課題検討を引き続き進め、中間的な取りまとめを行うよう努めます。「自治・まちづくり」の部会はまだ取り組まれていない状況です。どのような課題があるか集まって話し合うことから始めていくようにします。

2 公募型研究

- ①応募した調査研究活動に対して、岩手地域総合研究所として財政援助や調査過程での助言・支援をしていきます。
- ②今年度の公募型研究には今のところ応募はありませんが、中間での応募にも応えていきます。

3 その他の調査・研究活動

- ①研究所の取組みとして、ロシアによるウクライナ侵略問題、新型コロナウイルス問題、少子高齢化問題、労働法制、公契約条例、地域公共交通問題、国の支援が終了する後の被災地の復興問題、再生可能エネルギー普及の課題、ジェンダー平等、「地域医療構想」と医療問題や福祉、教育・保育の課題、県政・市政の課題など、様々な課題を地域と会員の要望に沿って調査・研究を進めます。
- ②その際、調査研究部会の活動を軌道に乗せ、多くの会員が参加できるようにします。

4 団体会員の活動情報の共有化

- ①研究所として情報を収集することや、各団体に情報の提供を依頼するなど、団体会員の自治体等への申し入れなどに関する情報を研究所を通じて共有できるようにします。

2) 学習・啓発に関する活動

1 連続講座「岩手の再生」の継続

- ①現在最も関心の高い問題は、ロシアによるウクライナ侵略の問題でしょう。21世紀の現在、このような理不尽な戦争が起こるとは想像も出来ないことでした。この問題をどの程度深めることができるか若干の懸念もありますが挑戦してみることにしたい。
- ②テーマは「ロシアによるウクライナ侵略と日本の平和・安全保障」（案）とし、ロシアとウク

ライナの歴史と関係、どうすれば戦争を終結できるのか、日本の平和、安全保障、日本国憲法との関連などを学習します。

- ③10月か11月を第1回目として、数回の講座を対面方式とweb併用で開催します。また、他団体と共催できないか働きかけをします。

2 わたし☆まちフォーラム in いわて 2022

- ①ウクライナやコロナウイルスの問題、関連する物価高騰の問題など課題はたくさんありますが、世界と比べて非常に遅れている「ジェンダー平等」の課題を統一テーマに共催団体と協議します。
- ②昨年度同様、全体集会、分科会の形式で行います。全体集会は統一テーマについて基本となる考え方、日本の現状、今後の運動等について講演をお願いします。分科会は、自治・まちづくり、産業・労働、くらし・福祉、子育て・教育の4分科会で開催し、統一テーマの問題が各分野でどのような形で表れているのか、どう対処し活動しているのか等を出し合って今後の運動に繋げていくようにします。基本は対面方式としますが、webも併用します。
- ③10月から11月に開催出来るよう共催団体と協議します。
- ④参加者が交流できる参加型の集いをめざします。他団体や地域の人たちも参加できる集会になるよう工夫します。

3 「地方財政分析実践講座」の開催 (別紙企画案参照)

4 地域・職場での「講座」の開催

- ①個人会員・団体会員や地域および他団体の要求に基づく学習活動に講師の派遣や「講座」開催の支援を行います。
- ②学習活動や調査活動での繋がりを基に連携を強め、継続的な共同の活動が出来るよう努めます。

3) 機関紙、書籍等の発行に関する活動

1 機関紙の発行

- ①通信「いわて地域総研」は、8ページ隔月で継続発行します。
- ②事務局会議で編集を検討し、「連続講座」の内容紹介やその時々的重要地域課題を特集すると共に、継続中の「地名の話」と合わせ、「通信員」の投稿や研究所理事の身近な活動紹介など、魅力ある紙面作りに努めます。

2 シリーズ「岩手の再生」2021年版の発行

「新型コロナウイルスと市民生活を」テーマに開催した2021年度の連続講座「岩手の再生」を「シリーズ岩手の再生第7集」としてブックレットに作成し、会員および広く県民に普及するとともに、研究所ホームページに掲載して公表します。

3 ホームページ

- ①ホームページは研究所の「顔」と位置づけ、研究所の活動結果を資料として掲載するなど、更新の回数を増やすとともに、研究成果を発表する場として有効に活用します。

4) 会員の拡大および組織の確立に関する活動

- ①会員が増えないことは組織の運営にも調査・研究活動にも影響があります。現状分析と対策の具体化を進め、研究者会員の能力を生かす場を多く作っていくと同時に、さらに研究者会員の加入を働きかけていきます。

- ②会員の研究所への関わりを深め、会員にとって学ぶ楽しさが味わえ、調査・研究部会を中心として自分の地域課題を調査するための会員の繋がりを支援し、充実感を得ることが出来る研究所にする努力を継続します。
- ③市町村議員団や各団体・組織を個別に訪問・懇談し、地域課題の調査・研究と研究所の意義を訴えながら団体加入、個人加入を勧めていきます。組織内での「住民と自治」誌普及、学習に努めます。
- ④財政運営が厳しい状況にあり、会員の拡大をはじめとする収入の増加、効率的な財政運営による支出の削減に努め、財政の健全化を目指します。